

# 震災ボランティア派遣 FAX通信⑦

各組合・地域労連

御中



2011年5月12日

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール [ao110@kenrouren.jp](mailto:ao110@kenrouren.jp)

【発信者】事務局長 有馬美恵

## 番外編 自治労連奮闘!

自治労連は、甚大な被害を受けた陸前高田市で、岩手自治労連と自治労連現地対策本部の協力で4月22日に支援センターを開設し、全国の仲間がボランティア活動を開始しました。ボランティア活動は、市の災害対策本部や社会福祉協議会ボランティアセンターと協力し、施設の泥出しやがれき撤去、被災住民へ支援物資を届けるなどの作業を行っています。

青森自治労連は4月25日から5月5日まで計3名を派遣し、ボランティア活動を行いました。また、新品の自転車6台を提供するため支援センター事務局を通じて陸前高田市の災害対策本部に手渡しました。ボランティア参加者のレポートをご紹介します。

4月29日9時五所川原市を出発。2時30分陸前高田市鈴木旅館に到着。16時30分明日からの現場を確認するため案内される。旅館を出て車で5分走るとあまりの悲惨な光景に言葉が出ない。悪い夢を見ているようだった。

5月1日雨天のため野外の作業は中止し、長部小学校体育館で物資の仕分けや長部地区の訪問活動による住民のニーズ調査などを行い、明日以降の作業計画を立てる。3日目ともなるとがれきが見慣れてきた。ボランティアのくぎの踏み抜き事故が報告あり、防止用の靴中敷きを発注した。

5月3日から5日までは、支援センターと現場との連絡調整や人や道具の運搬などを行った。がれきの撤去をした家の住民は、「最初は家を壊そうと思っていたが、またここで住もうと思う。」と笑顔で感謝された。住民との対話からまだまだ支援を必要とする人が大勢おり、今後も引き続き参加したいと思った。

4月30日8時30分気仙町長部地区へ出発。作業は、長部地区の区会長からの依頼で通学路のさんまの回収。長部地区にある水産加工会社の倉庫が津波で破壊され、1,320トンのさんまやさけなどが地区全体に散乱し、腐敗による酷い悪臭が漂っていた。21人が一斉にデレキヤスコップで回収し、順調に作業が進む。旅館に着くと体中からさんまの悪臭が。

5月2日8時30分出発。長部地区のさんま回収。他のボランティア団体が100人以上さんま回収にやってきました。これでさんまの回収が一気に進んだ。区会長は、表情が明るくなり、助かったとの言葉をかけられた。腐ったさんまと悪戦苦闘した甲斐があった。

最後に、被災地ではすべての物が破壊されいまでも電気、上下水道が復旧されていない状況であり、被災者の方々は厳しい生活を余儀なくされています。陸前高田市職員は、多くの職員や家族が行方不明や亡くなる中で、被災者や住民のくらしや健康を必死になってがんばっています。毎日、住民の必要とする情報発信のため臨時広報を発行しています。住民は、復興へ向けて自らの力で立ち上がろうとしています。現地では、連休以降ボランティアが激減しています。自治労連では、6月末まで支援センターを開設する予定です。1日も早く普通の暮らしができるよう支援を継続していきたいと思う。【高】